

25-27日

29) 西沢 衡, 井口元三, 坂東弘教, 隅田健太郎, 山本雅昭, 高橋路子, 福岡秀規, 清野 進, 高橋 裕: IGF-IはNASHにおける線維化進展を防止する, 第86回日本内分泌学会学術総会, 仙台, 2013年4月25-27日

30) 向井美希, 福岡秀規, 中島進介, 伊賀真紀子, 西本祐希, 廣田勇士, 坂口一彦, 小川 渉, 井口元三, 高橋 裕: コルチゾール産生副腎腫瘍, 心臓腫瘍, 皮膚多発性平滑筋腫を合併しCarney Complexとの鑑別を要した一例, 第14回内分泌学会近畿地方会, 京都, 2013年10月19日

31) 隅田健太郎, 松本隆作, 福岡秀規, 井口元三, 坂東弘教, 西沢 衡, 高橋路子, 高橋 裕: SOCS2遺伝子変異により引き起こされた巨人症, 第40回神経内分泌学会, 宮崎, 2013年10月23-24日

32) 隅田健太郎, 松本隆作, 福岡秀規, 井口元三, 廣田勇士, 坂東弘教, 西沢 衡, 高橋路子, 坂口一彦, 高橋 裕: 一般の2型糖尿病による血中GH, IGF-I値への影響の検討, 第23回臨床内分泌代謝Update, 名古屋, 2014年1月24-25日

33) 坂東弘教, 井口元三, 福岡秀規, 隅田健太郎, 松本隆作, 西沢 衡, 高橋路子, 谷口理章, 甲村英二, 高橋 裕: 下垂体機能低下症, 中枢性尿崩症におけるIgG4関連下垂体炎の頻度, 第23回臨床内分泌代謝Update, 名古屋, 2014年1月24-25日

34) 山本雅昭, 福岡秀規, 井口元三, 高橋路子, 西沢 衡, 隅田健太郎, 坂東弘教, 松本隆作, 高橋 裕: 75gOGTT試験のGH高値は先端巨大症における大腸癌合併と関連している, 第23回臨床内分泌代謝Update, 名古屋, 2014年1月24-25日

35) 松本隆作, 福岡秀規, 井口元三, 西沢 衡, 坂東弘教, 隅田健太郎, 高橋路子, 高橋 裕: 成人GH分泌不全症に対するGH補充療法: 肝機能に関する長期成績, 第23回臨床内分泌代謝Update, 名古屋, 2014年1月24-25日

36) 西沢 衡, 井口元三, 松本隆作, 坂東弘教, 隅田健太郎, 福岡秀規, 廣田勇士, 坂口一彦, 小川 渉, 高橋 裕: 頭部外傷後に発症し失神発作をきたしたACTH単独欠損症の一例, 第23回臨床内分泌代謝Update, 名古屋, 2014年1月24-25日

37) 中島進介, 福岡秀規, 関口兼司, 廣田勇士, 井口元三, 坂口一彦, 小川 渉, 高橋 裕: 下肢関節拘縮を呈し補充療法によって改善した汎下垂体機能低下症, 第23回臨床内分泌代謝Update, 名古屋, 2014年1月24-25日

38) 播 悠介, 福岡秀規, 竹内健人, 岩橋泰幸, 藤田泰功, 平田 悠, 伊賀真紀子, 中島進介, 西本祐希, 向井美希, 廣田勇士, 井口元三, 坂口一彦, 小川 渉, 高橋 裕: 顕性, 不顕性クッシング症候群における骨折と糖脂質代謝の関連, 第23回臨床内分泌代謝Update, 名古屋, 2014年1月24-25日

39) 平田 悠, 福岡秀規, 岩橋泰幸, 藤田泰功, 播 悠介, 伊賀真紀子, 中島進介, 西本祐希, 向井美希, 廣田勇士, 井口元三, 坂口一彦, 小川 渉, 高橋 裕: 中枢性甲状腺機能低下症に対するT4製剤補充時の指標に関する検討, 第23回臨床内分泌代謝Update, 名古屋, 2014年1月24-25日

40) 高橋路子, 松本隆作, 坂東弘教, 隅田健太郎, 西沢 衡, 福岡秀規, 井口元三, 宇佐美眞, 高橋 裕: ステロイド補

充が著効した重症患者における相対的副腎不全の1例，第23回臨床内分泌代謝Update，名古屋，2014年1月24-25日

- 41) 伊賀真紀子，福岡秀規，西本祐希，岩橋泰幸，藤田泰功，播 悠介，平田 悠，中島進介，向井美希，廣田勇士，井口元三，小川 渉，岡昌宏，高橋 裕：播種状黄色腫による中枢性尿崩症と考えられた一例，第24回間脳下垂体腫瘍学会，福岡，2014年2月21-22日

- 42) 福岡秀規，井口元三，松本隆作，坂東弘教，隅田健太郎，西澤 衡，高橋路子，井下尚子，山田正三，高橋 裕：ACTH産生下垂体腫瘍に発現するEGF受容体ファミリーの意義の解明，第24回間脳下垂体腫瘍学会，福岡，2014年2月21-22日

H. 知的財産権の出願・登録状況

該当なし

図1. 転写因子PIT-1に対する自己免疫によって引き起こされた下垂体機能低下症

Yamamoto M, Iguchi G, Takahashi Y et al. J Clin Invest. 121 113 2011

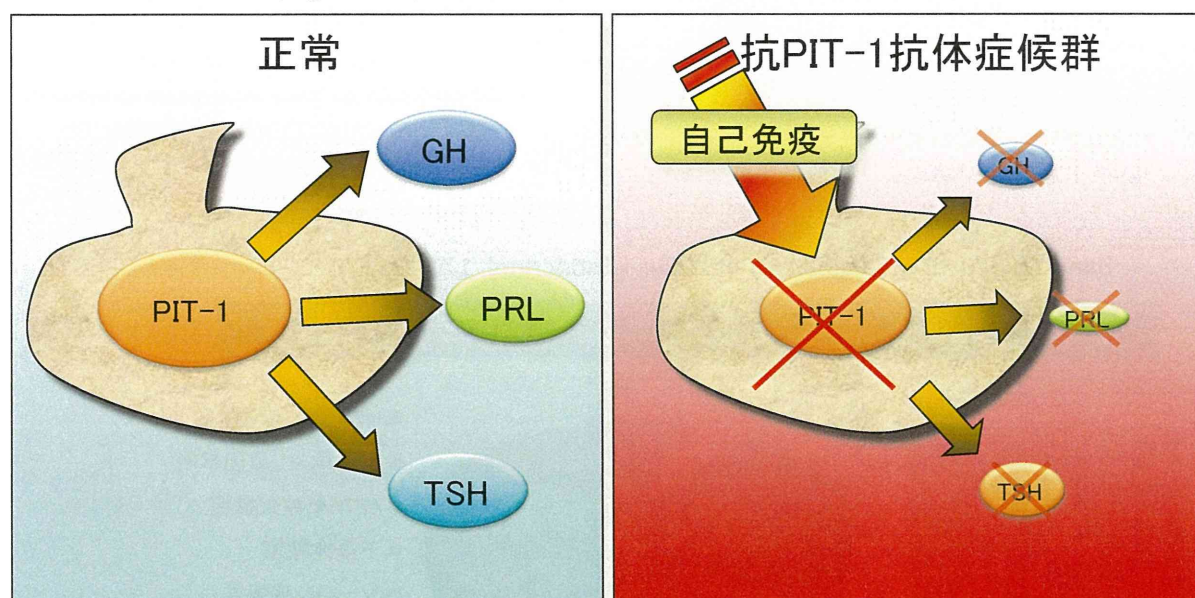


図2. IgG4関連下垂体炎自験例

Bando H, Iguchi G, Takahashi Y et al Eur J Endocrinol. 170 161 2013

症例	年齢 性別	IgG4 (mg/dl)	病歴
1	67 F	82.5※	67歳 突然の頭痛、 前葉機能低下症+尿崩症
2	53 F	16.9※	52歳 ミクリッツ病 (PSL 5mg) 53歳 全身倦怠感、口渇、 前葉機能低下症+尿崩症
3	68 F	16.9※	68歳 全身倦怠感、 前葉機能低下症
4	53 M	24.5※	47歳 眼窩内偽腫瘍、51歳 肺内に偽腫瘍 53歳 中枢性尿崩症 、肥厚性硬膜炎 54歳 前葉機能低下症+尿崩症 に移行、EJ 2001 47 335
5	56 M	279	40歳 腫瘍形成性肺炎 56歳 中枢性尿崩症 、70歳 後腹膜線維症
6	58 F	405	51歳 ミクリッツ病、間質性肺炎 (PSL30mg) 53歳 自己免疫性肺炎、58歳 中枢性尿崩症
7	76 M	513	76歳 前葉機能低下症+尿崩症

※ ステロイド投与後

図3. IgG4下垂体炎の頻度

Bando H, Iguchi G, Takahashi Y et al Eur J Endocrinol. 170 161 2013

下垂体機能低下症、尿崩症の4%、下垂体炎の少なくとも30%

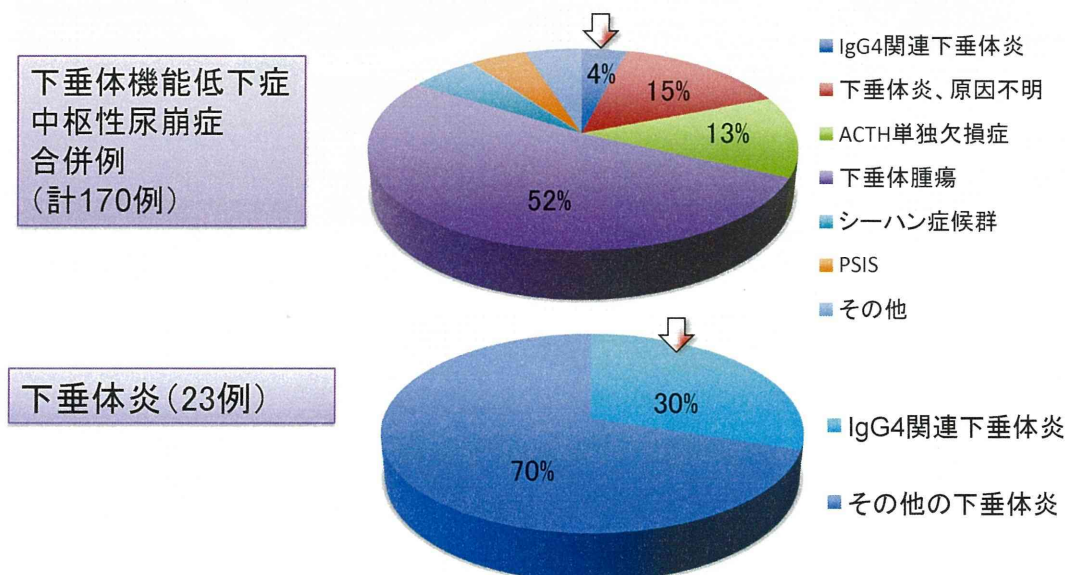


表 1. 自験例を含めたこれまでの IgG4 関連下垂体炎のレビュー

Bando H, Iguchi G, Takahashi Y et al Eur J Endocrinol. 170 161 2013

- これまでに22報で29例の報告
- 男性22例、女性7例 (3:1)
- IgG4関連疾患発症年齢 60.6 ± 11.2 歳
- IgG4関連下垂体炎発症年齢 63.3 ± 10.4 歳
- 前葉機能低下症 (83%)、尿崩症 (72%)、両者合併 (59%)
- 血清IgG4上昇 (75%)
 - ステロイド投与前: 950.5 ± 872.3 (mg/dL)
 - ステロイド投与後: 595.0 ± 729.1 (mg/dL)
- その他の臓器病変: 後腹膜線維症 (38%)、間質性肺炎 (28%)、ミクリッツ病と自己免疫性膵炎 (24%)、リンパ節腫大 (18%)、下垂体炎のみは14%
- 他臓器病変が先行し下垂体炎発症
- IgG4高値持続例は、時間的空間的多発

VI. 会 議 記 録

厚生労働省難治性疾患克服研究事業
間脳下垂体機能障害に関する調査研究班
平成25年度班会議

プログラム・抄録

日時：平成26年1月10日（金） 10:00～16:00

場所：TKP東京駅前カンファレンスセンター ホール5A

住所：〒103-0028 東京都中央区八重洲1-5-20 石塚八重洲ビル 5階

TEL：03-5227-8761

交通：JR 東京駅八重洲北口より徒歩1分

東京メトロ丸ノ内線 大手町駅B10出口より徒歩3分

東京メトロ銀座線 日本橋駅A3出口より徒歩3分

講演時間は各演題10分（うち口演7分、質疑3分）です。

厚生労働省難治性疾患克服研究事業 間脳下垂体機能障害に関する調査研究班
班長 大磯ユタカ

開会の辞 (10:00～10:05)

大磯ユタカ

厚生労働省健康局疾患対策課 挨拶 (10:05～10:10)

患者会代表 挨拶 (10:10～10:20)

- ・下垂体患者の会(下垂会) はむろおとや 代表理事
「患者会から見た新たな難病対策と課題について」
- ・中枢性尿崩症(CDI)の会 大木 里美 副代表
「夢にまで見た経口剤ミニリンメルトOD錠」

ACTH分泌異常症 I (10:20～10:50)

座長 岩崎 泰正

1. ACTH依存性Cushing症候群におけるCRH・dDAVP・GHRP-2負荷試験の評価
沖 隆¹⁾、飯野和美¹⁾、蔭山和則²⁾
浜松医科大学第二内科¹⁾、弘前大学大学院医学研究科内分泌代謝内科学²⁾
2. ヒトACTH1-39に対する新規超高感度測定法(ACTH/ICT-EIA)の開発と臨床応用：
一次性あるいは二次性ACTH分泌不全症(ACTHF)の鑑別診断(DDx)
片上秀喜
帝京大学ちば総合医療センター 内科・臨床研究部
3. 副腎性Subclinical Cushing症候群スクリーニングにおける0.5mgデキサメタゾン抑制試験
導入の試み
田邊真紀人、明比祐子、柳瀬敏彦
福岡大学医学部 内分泌・糖尿病内科

ACTH分泌異常症 II (10:50～11:30)

座長 岩崎 泰正

4. ACTH産生下垂体腺腫(ACTHoma)に対する内視鏡下経鼻的下垂体腫瘍摘出術(eTSS)の
治療成績
田原重志
日本医科大学脳神経外科
5. メラノコルチン2受容体欠損マウスにおける下垂体遺伝子発現の検討－第2報－
亀田 啓¹⁾、清水 力²⁾
北海道大学病院内科Ⅱ¹⁾、北海道大学病院検査・輸血部²⁾

6. Cushing病の薬物治療法開発に向けた新たなアプローチの検討

岩崎泰正、西山 充、田口崇文

高知大学臨床医学部門

7. レチノイドX受容体(RXR)アゴニストHX630の*Pomc*遺伝子転写抑制機構の解明ならびに *in vivo*腫瘍増殖抑制効果の検討

箱田明子¹⁾、清水恭子¹⁾、小暮直敬¹⁾、宇留野晃²⁾、横山 敦¹⁾、伊藤 亮¹⁾、菅原香織¹⁾、
吉川雄朗³⁾、藤原幾磨⁴⁾、佐藤郁子¹⁾、松田 謙⁵⁾、工藤正孝⁵⁾、影近弘之⁶⁾、岩崎泰正⁷⁾、
伊藤貞嘉⁵⁾、菅原 明¹⁾

東北大学大学院医学系研究科分子内分泌学分野¹⁾、同 医化学分野²⁾、同 機能薬理学分
野³⁾、同 小児病態学分野⁴⁾、同 腎・高血圧・内分泌学分野⁵⁾、東京医科歯科大学 生体
材料工学研究所⁶⁾、高知大学 臨床医学部門⁷⁾

バゾプレシン分泌異常症・データベース (11:30～12:00)

座長 石川 三衛

8. 心疾患におけるバゾプレシン分泌過剰

石川三衛、多田祐子、荒尾憲司郎、百村伸一

自治医科大学附属さいたま医療センター内分泌代謝科、循環器科

9. 中枢性尿崩症において渇感障害が生命予後に及ぼす影響の検討

有馬 寛、梶村益久、大磯ユタカ

名古屋大学大学院医学系研究科 糖尿病・内分泌内科学

10. 間脳下垂体疾患データベースによる長期予後調査

横山徹爾¹⁾、置村康彦²⁾、千原和夫³⁾

国立保健医療科学院生涯健康研究部¹⁾、神戸女子大学²⁾、兵庫県立加古川医療センター³⁾

昼休み (12:00～13:00)

班連絡会議(研究分担者のみ) (12:00～13:00) TKP東京駅前カンファレンスセンター
カンファレンスルーム5A

11. 先端巨大症患者の世代別特性について

藤尾信吾¹⁾、羽生未佳¹⁾、湯之上俊二¹⁾、平野宏文¹⁾、時村 洋¹⁾、有村 洋²⁾、
西尾善彦²⁾、有田和徳¹⁾

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 脳神経外科学¹⁾、鹿児島大学大学院医歯学総合研究
科 糖尿病・内分泌内科学²⁾

12. 先端巨大症術後における OGTT での GH 底値 < 0.4 ng/ml を用いた治療効果判定に関する検討

福田いずみ、肥塚直美、村岡東子、市原淳弘

東京女子医科大学 高血圧・内分泌内科

13. 先端巨大症術後の QOL と骨関節症に関する検討

清水浩一郎、山口秀樹、米川忠人、中里雅光

宮崎大学医学部 神経呼吸内分泌代謝内科

14. 成人下垂体低下症 QOL 尺度を用いた本邦先端巨大症の QOL 評価

大月道夫、北村哲宏、玉田大介、田淵優希子、向井康祐、下村伊一郎

大阪大学大学院医学系研究科内分泌・代謝内科

15. 器質性成長ホルモン分泌不全症 (OGHD) に対する成長ホルモン適応基準の検討

堀川玲子¹⁾、横谷 進²⁾

国立成育医療研究センター 内分泌代謝科¹⁾、国立成育医療研究センター 生体防御系内
科部²⁾

16. 成人 GH 分泌不全症の合併症としての NAFLD/NASH の病態と治療意義の解明

高橋 裕、松本隆作、西沢 衡、山本雅昭、坂東弘教、隅田健太郎、高橋路子、
福岡秀規、井口元三

神戸大学大学院医学研究科 糖尿病・内分泌内科学、神戸大学医学部附属病院 糖尿病内
分泌内科

17. TSH産生腫瘍に対するソマトスタチンアナログ徐放製剤による治療

島津 章、臼井 健、中谷理恵子、植田洋平、垣田真以子、中尾佳奈子、立木美香、
田上哲也、成瀬光栄

国立病院機構京都医療センター臨床研究センター、同 内分泌代謝内科

18. Rev-erb α による下垂体TSH β 遺伝子の新たな発現制御機構

松本俊一、山田正信

群馬大学大学院医学系研究科病態制御内科学

19. エストロゲン長期投与により誘発された多ホルモン産生増殖性病変の分子病理学的解析

竹腰 進¹⁾、井野元智恵²⁾、安井雄三¹⁾、中村直哉²⁾、長村義之³⁾

東海大学医学部基礎医学系生体防御学¹⁾、東海大学医学部基盤診療学系病理診断学²⁾、
国際医療福祉大学病理診断センター³⁾

20. PCOSの病態におけるゴナドトロピン作用

峯岸 敬

群馬大学大学院医学系研究科産科婦人科学

21. 2光子励起法を用いた可視化解析により明らかになった機能性ヒト下垂体腺腫からの自発性顆粒分泌

高野幸路

北里大学 内分泌代謝内科

22. Cushing病に対する新規薬物療法および診断法の開発

岩崎泰正¹⁾、沖 隆²⁾、菅原 明³⁾

高知大学臨床医学部門¹⁾、浜松医科大学第二内科²⁾、東北大学大学院医学系研究科分子内
分泌学分野³⁾

23. GH産生腺腫の全ゲノムメチローム解析で明らかになったこと

高野幸路¹⁾、田原重志²⁾、有田和徳³⁾

北里大学内分泌代謝内科¹⁾、日本医科大学脳神経外科学²⁾、鹿児島大学脳神経外科³⁾

24. 自己免疫性下垂体炎の診断法の確立に関する研究

—抗PIT-1抗体症候群とIgG4関連下垂体炎の病態の解明—

高橋 裕、坂東弘教、山本雅昭、松本隆作、西沢 衡、隅田健太郎、高橋路子、
福岡秀規、井口元三、島津 章、梶村益久、大磯ユタカ

神戸大学大学院医学研究科 糖尿病・内分泌内科学、神戸大学医学部附属病院 糖尿病内
分泌内科、国立病院機構京都医療センター臨床研究センター、名古屋大学大学院医学系
研究科 糖尿病・内分泌内科学

連絡事項 (15:20～15:40)

大磯ユタカ

新体制について (15:40～15:50)

島津 章

閉会の辞 ～6年間を振り返って～ (15:50～16:00)

大磯ユタカ

■ 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業 ■
間脳下垂体機能障害に関する調査研究班
平成25年度公開セミナー

2013

○プログラム

1 開会の辞

[18:00~18:10]

間脳下垂体機能障害に関する調査研究班 研究代表者 | 大磯 ユタカ
 名古屋大学大学院医学系研究科 糖尿病・内分泌内科 教授

2

**ゴナドトロピン分泌異常症：
原因と対応**

[18:10~18:30]

間脳下垂体機能障害に関する調査研究班 研究分担者 | 峯岸 敬
 群馬大学大学院医学系研究科産科婦人科学 教授

3

**下垂体ホルモンがないと、
何が起こるのか？**

[18:35~18:55]

間脳下垂体機能障害に関する調査研究班 研究分担者 | 岩崎 泰正
 高知大学教育研究部医療学系臨床医学部門 教授

4

**成長ホルモン分泌異常症：
治療の進歩**

[19:00~19:20]

間脳下垂体機能障害に関する調査研究班 研究分担者 | 島津 章
 京都医療センター臨床研究センター センター長

5

**本研究班の6年間の活動を
振り返って**

[19:25~19:55]

間脳下垂体機能障害に関する調査研究班 研究代表者 | 大磯 ユタカ
 名古屋大学大学院医学系研究科 糖尿病・内分泌内科 教授

日時

2013年10月18日金 (18:00~20:00)

会場

名古屋大学医学部附属病院 中央診療棟3階講堂
 [名古屋市昭和区鶴舞町65]

間脳下垂体機能障害に関する調査研究 研究代表者 大磯ユタカ

■事務局:名古屋大学大学院医学系研究科 糖尿病・内分泌内科

〒466-8550 名古屋市昭和区鶴舞町65

TEL.052-744-2181 / FAX.052-744-2212

後援:一般社団法人 日本内分泌学会

**間脳下垂体疾患の病態と
診断・治療に関する最新の研究成果**

VII. 研究成果の刊行に関する一覧表

VII. 研究成果の刊行に関する一覧表

雑 誌

発表者氏名	論文タイトル	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Oiso Y, Robertson GL, Nørgaard JP, Juul KV.	Treatment of Neurohypophyseal Diabetes Insipidus.	J Clin Endocrinol Metab.	98	3958-3967	2013
Okumura A, Ishikawa K, Watanabe R, Tsunekawa T, Asai C, Kiyota A, Watanabe M, Oiso Y.	Urine output and resultant osmotic water shift are major determinants of plasma sodium level in syndrome of inappropriate antidiuretic hormone secretion.	Transl Res.	162	56-63	2013
Miyata M, Yoshida M, Shinoda J, Sasano H, Oiso Y.	A marked difference in the vasopressin responsiveness between the adrenal glands in a patient with adrenocorticotropin-independent macronodular adrenal hyperplasia.	Intern Med.	52	1073-1078	2013
大磯ユタカ, 石川三衛, 有馬 寛, 梶村益久ほか	バゾプレシンと疾患	医学のあゆみ	247	525-569	2013
Fukuda I, Hizuka N, Muraoka T, Kurimoto M, Yamakado Y, Takano K, Ichihara A	Clinical features and therapeutic outcomes of acromegaly during the recent 10 years in a single institution in Japan.	Pituitary	17	90-95	2014
Arao K, Fujiwara T, Sakakura K, Wada H, Sugawara Y, Suga C, Ako J, Ishikawa S, Momomura S	Hyponatremia as a predictor for worsening heart failure in patients receiving cardiac resynchronization therapy.	Circ J	77 (1)	116-122	2013
Aoki A, Murata M, Asano T, Ikoma A, Sasaki M, Saito T, Otani T, Jinbo S, Ikeda N, Kawakami M, Ishikawa S	Association of serum osteoprotegerin with vascular calcification in patients with type 2 diabetes.	Cardiovasc Diabetol	12	11 (p.1-8)	2013
Kamochi H, Kusaka G, Ishikawa M, Ishikawa S, Tanaka Y	Late onset cerebrospinal fluid leakage associated with past head injury.	Neurol Med Chir (Tokyo)	53	217-220	2013
福原紀章, 井下尚子, 片上秀喜, 堀口健太郎, 鈴木尚宜, 竹下 章, 藤井丈士, 西岡 宏, 竹内靖博, 山田正三	異所性 silent ACTH 産生下垂体腺腫の1例	日本内分泌学会雑誌	89	8-10	2013

雑 誌

発表者氏名	論文タイトル	発表誌名	巻号	ページ	出版年
片上秀喜, 橋田誠一, 宮村信博, 肥塚直美, 山田正三	内分泌代謝領域における超高感度測定法の開発と臨床応用(その9)異所性ACTH産生症候群(EAS)の診断	日本内分泌学会 雑誌	102	218	2013
片上秀喜, 奈須和幸	異所性GHRH産生腫瘍 コンソーシアム. 神経内分泌腫瘍(NET)におけるGHRHとソマトスタチン(SRIF): 先端巨大症(Ac)を呈した異所性GHRH産生腫瘍(eGHRH)での検討	日本内分泌学会 雑誌	89(1)	232	2013
米川忠人, 山口秀樹, 土持若葉, 片上秀喜, 山田正三, 中里雅光	診断が容易でない下垂体部の真菌感染症の2例	日本内分泌学会 雑誌	89(1)	230	2013
宮下健悟, 高橋千恵, 西垣五月, 水野裕介, 内木康博, 堀川玲子, 片上秀喜	診断に苦慮したHCG産生縦隔腫瘍による思春期早発症の男児例	日本内分泌学会 雑誌	89(1)	290	2013
田所梨枝, 橋詰真衣, 村井謙允, 赤岡利香, 杉澤千穂, 遠藤 慶, 飯坂 徹, 齊木 亮, 佐藤尚太郎, 高橋育克, 大塚史子, 片上秀喜, 谷山松雄	GHRH産生膵内分泌癌を伴った異所性ACTH産生症候群の一例	日本内分泌学会 雑誌	89(1)	347	2013
片上秀喜, 奈須和幸, 伴 良行, 緑川早苗	異所性GHRH産生腫瘍 コンソーシアム. 神経内分泌腫瘍(NET)におけるクロモグラニンA(CgA), GH分泌促進ホルモン(GHRH)とソマトスタチン(SRIF)の産生・分泌の比較	日本内分泌学会 雑誌	89(2)	809	2013
廣畑倫生, 片上秀喜, 岩上貴幸, 山田 創, 西堂 創, 宮本信哉, 保谷克巳, 村上峰子, 石井雄道, 寺本 明, 松野 彰	周術期管理に難渋した再発GH産生下垂体腺腫の1例	日本内分泌学会 雑誌	89(2)	805	2013
嘉納麻耶, 瀬尾千顕, 山城健二, 東條克能, 片上秀喜	経過中に組織像が変化した前立腺癌を原発巣とする異所性ACTH症候群の1例	日本内分泌学会 雑誌	89(2)	811	2013
Kato F, Hamajima T, Hasegawa T, Amano N, Horikawa R, Nishimura G, Nakashima S, Fuke T, Sano S, Fukami M, Ogata T	IMAGe syndrome: clinical and genetic implications based on investigations in three Japanese patients.	Clin Endocrinol (Oxf)	Dec 7. doi: 10.1111/ cen.12379.		2013

雑 誌

発表者氏名	論文タイトル	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Isojima T, Doi K, Mitsui J, Oda Y, Tokuhito E, Yasoda A, Yorifuji T, Horikawa R, Yoshimura J, Ishiura H, Morishita S, Tsuji S, Kitanaka S	A recurrent de novo FAM111A mutation causes Kenny-Caffey syndrome type 2.	J Bone Miner Res.	Aug 31. doi: 10.1002/jbmr.2091.		2013
Naiki Y, Horikawa R, Tanaka T	Child health and development network. assessment of psychosocial status among short-stature children with and without growth hormone therapy and their parents.	Clin Pediatr Endocrinol	22 (2)	25-32	2013
Nakajima M, Mizumoto S, Miyake N, Kogawa R, Iida A, Ito H, Kitoh H, Hirayama A, Mitsubuchi H, Miyazaki O, Kosaki R, Horikawa R, Lai A, Mendoza-Londono R, Dupuis L, Chitayat D, Howard A, Leal GF, Cavalcanti D, Tsurusaki Y, Saitsu H, Watanabe S, Lausch E, Unger S, Bonafé L, Ohashi H, Superti-Furga A, Matsumoto N, Sugahara K, Nishimura G, Ikegawa S	Mutations in B3GALT6, which encodes a glycosaminoglycan linker region enzyme, cause a spectrum of skeletal and connective tissue disorders.	Am J Hum Genet.	92 (6)	927-934	2013
Fuke T, Mizuno S, Nagai T, Hasegawa T, Horikawa R, Miyoshi Y, Muroya K, Kondoh T, Numakura C, Sato S, Nakabayashi K, Tayama C, Hata K, Sano S, Matsubara K, Kagami M, Yamazawa K, Ogata T	Molecular and clinical studies in 138 Japanese patients with Silver-Russell syndrome.	PLoS One.	8 (3)	e60105	2013
堀川玲子	<園・学校検診実施上のポイント>思春期の問題への対応ー内分泌的問題	小児内科	45 (3)	524-529	2013
堀川玲子	負荷試験の実際2013 <甲状腺系機能検査>甲状腺疾患の検査の進め方	小児内科	45 (5)	2013-2015	2013
Kitahara Y, Nakamura K, Kogure K, Minegishi T	Role of microrna-136-3p on the expression of luteinizing hormone-human chorionic gonadotropin receptor mRNA in rat ovaries.	Biol Reprod.	89	114	2013

雑 誌

発表者氏名	論文タイトル	発表誌名	巻号	ページ	出版年
島津 章	非肉芽腫性視床下部下垂体炎（リンパ球性下垂体炎、IgG4関連下垂体炎など）の診断と治療，特集「下垂体腺腫と鑑別を要するトルコ鞍近傍疾患」	ホルモンと臨床	60(2)	165-172	2013
島津 章，寺本 明，肥塚直美，北井一男，Ramis Joaquin，千原和夫	先端巨大症、下垂体性巨人症に対するランレオチド酢酸塩徐放性製剤の有効性と安全性について，第23回日本間脳下垂体腫瘍学会 Proceeding	日本内分泌学会雑誌	89 (HPT)	52-54	2013
垣田真以子，難波多挙，村田 敬，安井久晃，植田洋平，中谷理恵子，中尾佳奈子，立木美香，田上哲也，臼井 健，成瀬光栄，島津 章	多発肝転移を伴う肺原発神経内分泌腫瘍による異所性ACTH産生腫瘍に対するエベロリムスの治療効果	ACTH RELATED PEPTIDES.	Vol.24	78-80	2013
島津 章	IgG4関連漏斗下垂体炎，特集Ⅰ．IgG4関連疾患と神経系	神経内科	80(2)	in press	2014
Shimatsu A, Teramoto A, Hizuka N, Kitai K, Ramis J, Chihara K	Efficacy, safety and pharmacokinetics of sustained-release lanreotide (lanreotide Autogel) in Japanese patients with acromegaly or pituitary gigantism.	Endocrine Journal	60(5)	651-663	2013
Nanba K, Usui T, Nakakuki T, Shimatsu A	Tension pneumocephalus after two 0.25-mg cabergoline tablets in MEN1-related macroprolactinoma.	British Medical Journal Case Reports			2013
Adachi T, Hattori N, Ishihara T, Iida H, Saito T, Miyashima S, Shimatsu A	Possible involvement of matrix metalloproteinase-3 in the pathogenesis of macroprolactinaemia in some patients with rheumatoid arthritis.	European Journal of Endocrinology	169(2)	203-209	2013
Shimatsu A, Tai S, Imori M, Ihara K, Taketsuna M, Funai J, Tanaka T, Teramoto A, Irie M, Chihara K	Efficacy and safety of growth hormone replacement therapy in Japanese adults with growth hormone deficiency: a post-marketing observational study.	Endocrine Journal	60(10)	1131-1144	2013
Sakamoto R, Matsubara E, Nomura M, Wang L, Kawahara Y, Yanase T, Nawata H, Takayanagi R.	Roles for corticotropin-releasing factor receptor type 1 in energy homeostasis in mice.	Metabolism		in press	2014

雑 誌

発表者氏名	論文タイトル	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Murase K, Nagaishi R, Takenoshita H, Nomiya T, Akehi Y, Yanase T.	Prevalence and clinical characteristics of primary aldosteronism in Japanese patients with type 2 diabetes mellitus and hypertension.	Endocr J.	60 (8)	967-976	2013
Akehi Y, Kawate H, Murase K, Nagaishi R, Nomiya T, Nomura M, Takayanagi R, Yanase T	Proposed diagnostic criteria for subclinical Cushing's syndrome associated with adrenal incidentaloma	Endocrine J	60 (7)	903-912	2013
Zhou T, Cong S, Sun S, Sun H, Zou R, Wang S, Wang C, Jiao J, Goto K, Nawata H, Yanase T, Zhao Y	Identification of endocrine disrupting chemicals activating SXR-mediated transactivation of CYP3A and CYP7A1.	Mol Cell Endocrinol	365 (1)	36-43	2013
明比祐子, 継 仁, 辰元亜希, 吉田亮子, 二村 聡, 重川誠二, 鍋島一樹, 井上 亨, 小野順子, 柳瀬敏彦	Corticotroph hyperplasia を示した高齢Cushing 症候群の一例	臨床と研究	90 (1)	103-106	2013
後藤敏孝, 高田 徹, 佐藤栄一, 田村和夫, 柳瀬敏彦	クリプトコッカス、サイトメガロウイルス及びニューモシスチスの重複感染下でコルチゾール拮抗薬投与後に急性呼吸窮迫症候群を呈したCushing 症候群の1例	感染症学雑誌	87 (1)	39-43	2013
柳瀬敏彦, 福田高士, 高田彩子, 野見山崇, 明比祐子	原発性・続発性副腎機能不全患者におけるグルココルチコイド補充指標としてのCGMの有用性に関する検討 (第23 回日本間脳下垂体学会 proceeding)	日本内分泌学会 雑誌	89	35-37	2013
柳瀬敏彦	特集：臨床検査値をどう読むか 下垂体、副腎皮質、性ホルモン	臨床と研究	90 (7)	926-933	2013
柳瀬敏彦	性腺機能低下症とその治療3. 男性の性腺機能低下症：男性更年期障害 (LOH) と生活習慣病	内分泌・糖尿病代謝内科	36 (5)	422-428	2013
Sakai N, Koizumi S, Yamashita S, Takehara Y, Sakahara H, Baba S, Oki Y, Hiramatsu H, Namba H	Arterial Spin-Labeled Perfusion Imaging Reflects Vascular Density in Nonfunctioning Pituitary Macroadenomas.	AJNR American journal of neuroradiology	34	2139-2143	2013

雑 誌

発表者氏名	論文タイトル	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Kageyama K, Oki Y, Sakihara S, Nigawara T, Terui K, Suda T	Evaluation of the diagnostic criteria for Cushing's disease in Japan.	Endocr J	60	127-135	2013
山口秀樹, 鯨島 浩, 中里雅光	下垂体炎, 尿崩症.	産科と婦人科	80 (Suppl)	99-103	2013
岩崎泰正	症状・身体所見とホルモン分泌・作用機序との関連 特別増刊号「内分泌ホルモンのすべて」	内分泌・糖尿病・代謝内科	4 (Suppl)	22-30	2013
岩崎泰正	中枢性尿崩症. 特集「内分泌疾患に強くなる」	Medicina	50	1802-1805	2013
綿 貫裕, 高安 忍, 蔭山和則, 岩崎泰正, 須田俊宏, 大門 眞	ヒトメラノーマ HMV-II細胞における CRH 及び urocortin 1 による tyrosinase-related protein 1 遺伝子発現作用機序についての検討	ACTH RELATED PEPTIDES	24	18-20	2013
蔭山和則, 山形 聡, 岩崎泰正, 井樋慶一	視床下部 CRF 遺伝子発現における FosB 蛋白の関与について - in vivo の検討 -	ACTH RELATED PEPTIDES	24	21-22	2013
西山 充, 次田 誠, 中山修一, 岡崎瑞穂, 田口崇文, 岩崎泰正, 辛島 尚, 執印太郎, 寺田典生	片側副腎腫瘍摘除により糖尿病の改善が得られた AIMAH の 1 例	ACTH RELATED PEPTIDES	24	24-26	2013
Miyake Y, Tanaka K, Nishikawa T, Naruse M, Takayanagi R, Sasano H, Takeda Y, Shibata H, Sone M, Satoh F, Yamada M, Ueshiba H, Katabami T, Iwasaki Y, Tanaka H, Tanahashi Y, Suzuki S, Hasegawa T, Katsumata N, Tajima T, Yanase T	Prognosis of primary aldosteronism in Japan: results from a nationwide epidemiological study.	Endocr J	ePub		2013
Lee HA, Lee DY, Cho HM, Kim SY, Iwasaki Y, Kim IK	Histone deacetylase inhibition attenuates transcriptional activity of mineralocorticoid receptor through its acetylation and prevents development of hypertension.	Circ Res	112	1004-1012	2013
Kageyama K, Itoi K, Iwasaki Y, Niioka K, Watanuki Y, Yamagata S, Nakada Y, Das G, Suda T, Daimon M	Stimulation of corticotropin-releasing factor gene expression by FosB in rat hypothalamic 4B cells.	Peptides	51C	59-64	2013

雑 誌

発表者氏名	論文タイトル	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Watanuki Y, Takayasu S, Kageyama K, Iwasaki Y, Sakihara S, Terui K, Nigawara T, Suda T	Involvement of Nurr-1/Nur77 in corticotropin-releasing factor/urocortin1-induced tyrosinase-related protein 1 gene transcription in human melanoma HMV-II cells	Mol Cell Endocrinol	370	42-51	2013
Hirohata T, Asano K, Takano S, Arita K, Tahara S, Takano K. et al	DNA mismatch repair protein MSH6 correlated with the responses of atypical pituitary adenomas and pituitary carcinomas to temozolomide: The national cooperative study by the Japan Society for Hypothalamic and Pituitary Tumors.	J. Clin. Endocrinol. & Metab.	98 (3)	1130-1136	2013
Kikuchi T, Tokunaka M, Kikuti YY, Carreras J, Ogura G, Takekoshi S, Kojima M, Ando K, Hashimoto Y, Abe M, Takata K, Yoshino T, Muto A, Igarashi K, Nakamura N	Over-expression of BACH2 is related to ongoing somatic hypermutation of the immunoglobulin heavy chain gene variable region of de novo diffuse large B-cell lymphoma.	Pathol Int.	63 (7)	339-344	2013
Imamura N, Horikoshi Y, Matsuzaki T, Toriumi K, Kitatani K, Ogura G, Masuda R, Nakamura N, Takekoshi S, Iwazaki M	Localization of aPKC Lambda/Iota and Its Interacting Protein, Lgl2, Is Significantly Associated with Lung Adenocarcinoma Progression.	Tokai J Exp Clin Med	38 (4)	146-158	2013
Ishida E, Hashimoto K, Okada S, Satoh T, Yamada M, Mori M	Thyroid hormone receptor and liver X receptor competitively up-regulate human selective Alzheimer's disease indicator-1 gene expression at the transcriptional levels.	Biochem Biophys Res Commun	432	513-518	2013
Ishida E, Hashimoto K, Okada S, Satoh T, Yamada M, Mori M	Crosstalk between thyroid hormone receptor and liver X receptor in the regulation of selective Alzheimer's disease indicator-1 gene expression.	PLoS One	8 (1)	e54901	2013
Miyoshi A, Nagai S, Takeda M, Kondo T, Nomoto H, Kameda H, Hirai A, Cho K, Kimachi K, Shimizu C, Atsumi T, Miyoshi H	Ovarian morphology and prevalence of polycystic ovary syndrome in Japanese women with Type 1 diabetes mellitus.	J Diabetes Invest	4	326-329	2013